



## お月見どろぼう



お月見どろぼうは、お月見の日（中秋の名月または十五夜ともいう）に行います。2023年のお月見は9月29日（金）で、お月見どろぼうは、中秋の名月に飾られているお月見のお供え物（お団子）を、子供たちが盗む風習で、昔子供たちは月からの使者と考えられており、この日に限って盗むことが許されていたそうです。

また、「子供たちにお団子を盗まれることは縁起が良く、農作物が豊作になる」「子供たちがお供えを食べることで、神様が召し上がったという意味になる」「盗んだお団子を食べた子供は長者になる」「七軒盗んで食べると縁起が良い」などともいわれているそうです。子供たちは、竿のような長い棒の先に、針や針金をつけ、それを使ってお団子を盗むので、お団子を縁側の盗みやすい場所に置いていたそうです。

お月見どろぼうの起源や発祥は、昔、中秋の名月の日だけは、他人の畑の芋を盗んでも良いという風習がありました。他人の畑の芋を、盗めるだけ盗む！というのではなく、道から片足だけ踏み込んだ範囲で・・・という暗黙の約束があったそうです。

芋を盗まれても「お月見様が持って行ってくださった」ということで縁起が良く、盗まれた畑は豊作になるともいわれていました。そのうち、畑のお芋がお月見のお供え物であるお団子に変化したそうです。現在でも子供たちが「お月見下さい！」「お月見どろぼうです！」などと声をかけて各家を周り、お団子やお菓子をもらう風習が残っている地域があって、福島県、茨城県、千葉県、山梨県、愛知県、奈良県、大阪府、大分県、鹿児島県、沖縄県などで行われているそうです。中秋の名月の日、月明かりが道を照らしてくれます。今は街灯などがあるので、月が出ていなくても困りませんが、昔は月明かりを頼りにお月見どろぼうをしていたのでしょね。私の知る限りお月見どろぼうをしたりされたりしたことはありませんが、なんだか可愛らしいどろぼうですよ。



## 【美味しい梨の見分け方】

美味しい梨の見分け方は、日あたりのいい場所で育ったもの。枝の先から幹に向かって甘味がまわるので、枝の先になっている実が甘く、色は色ムラがなく、二十世紀などの緑っぽい梨（青梨といいます）は黄みが強いもの、幸水などの茶色っぽい梨（赤梨といいます）は色の濃いものが食べ頃。形は、軸がしっかりとっていて、お尻がふっくらと大きいもの、重みがあるもの、果皮に張りがあるものを。果皮のザラザラは熟すにつれて減っていくので、ツルツルのものを選ぶと良い。※西洋ナシは、採ってもすぐには食べられません。しばらくおいて熟してから食べます。

みちのくの里 梨

検索

FROM-ZERO 通信は弊社のお取引先の皆様には毎月配布させていただいている情報誌です。



株式会社 オフィスゼロ

〒963-0201 福島県郡山市大槻町字下町 128

<http://www.office-0.co.jp/>

TEL 024-962-4709 FAX 024-962-4710



Web サイト スログ